

## 第5講 中世社会の展開

### 封建制

#### 主従関係としての封建制

起源：恩貸地制度（ローマ起源）

従士制度（ゲルマン起源）

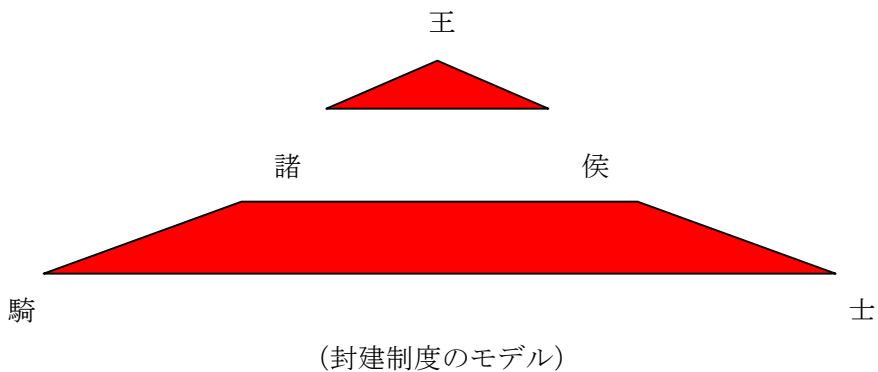
カール大帝：軍役に対して土地支給

双務契約に基づく

君主→臣下：封土、保護、他特権の付与

臣下→君主：軍役、助言、援助の義務

複数の君主を持つ



### 荘園制度

「領主のいない土地はない」

コロヌス制（ローマ起源）

没落自由民（ゲルマン起源）

#### 古典荘園

直営地と賦役

#### 純粹荘園

直営地を欠く

領主裁判権

#### 古典荘園

8世紀－11／12世紀－14世紀

直営地：荘園の 1 / 3 - 1 / 5。

農奴の賦役（週賦役：3 日 / 週）により経営。

託営地：慣習による保有。貢租を負担。

20ha（ドイツでは 30 モルゲン = 7 - 8ha）。

共有地：放牧地、森林など。

賦役（週賦役と臨時賦役）

結婚税、死亡税、人頭税：農奴のみ負担。

経済外強制

領主裁判権と警察権

領主施設強制使用

7 / 8 世紀 ライン～セーナ間の北ガリアに発生

中世の農業革命 10 - 13 世紀

穀草式農法

小麦 → 休耕（数年間） → 小麦 → 休耕（数年間）

三圃制農法 10 / 11 世紀 - 19 世紀

秋蒔き小麦 → 春蒔き大麦・燕麦 → 休耕 → 秋蒔き小麦

大型重量有輪犁 → 共同労働 → 集村化（14 - 15 世紀）

共同規制

ロワール川流域中心

繫駕法、蹄鉄、水車の使用

開墾と干拓

シトー派、領主、エルベ川以東（ドイツ騎士団）、イベリア半島

荘園制の変質

12 - 15 世紀 直営地の解体 → 小作地化

13 - 14 世紀 賦役の金納化

14 - 16 世紀 賦役の消滅

13 - 14 世紀 農奴解放初夜権の買い取り

↓

## 農民反乱

1358 ジャックリーの乱（フランス）

1381 ワット＝タイラーの乱（イギリス）

「アダムが耕し、イブが紡いだとき、誰が領主だったのか。」

独立自営農民（ヨーマン）の出現 14－15 世紀

## 遠隔地貿易の発達 11 世紀以降

### 地中海貿易

バーリ・アマルフィ→ヴェニス・ジェノヴァ

香辛料、明礬、藍、赤土、宝石、綿、絹・・・輸入

銀、奴隷、毛織物・・・輸出

### バルト海貿易

1358 ハンザ同盟結成 リューベックとハンブルク

100 都市参加、

4 在外商館（ロンドン、ブリュージュ、ベルゲン、ノブゴロド）

木材、毛皮、穀物、魚介類（鯨や鱈など）

### 南ドイツ

銀鉱山を独占→フッガー家やウェルザー家などの豪商

ニュルンベルク、アウクスブルク

イタリア諸都市と北欧・東欧を結ぶ

シャンパーニュの大市 12－13 世紀←関税撤廃

トロア、プロヴァン、ラニー、バールの 4 市

↓

フランドル（ブルゴーニュ公領）

ヨーロッパ最大の毛織物工業地帯

アラス、ガン、イープル

## 中世都市

### 起源

フォブール（商人定住地）の発展

コンミューン（自治権）闘争 10－13 世紀

自治特許状の付与

自治都市の成立

商人ギルドの支配（例 パリー水運業者のギルド）

市長、市参事会を独占

ポーポロ・グロッシとポーポロ・ミヌート

1378 チョンピ（梳き毛工）の乱

ギルド

徒弟制

親方、職人、徒弟

ギルド規制

中世末期 14－15 世紀

人口過密→食糧不足

降雨量の増加 1300 頃－1317 年 → 不作と飢饉

イーブルの例 1316 年 2 万人中 2794 人埋葬

50%の穀物価格の上昇

黒死病（ペスト）の流行 1347－53 年

パリ 20 万人中 5 万人死亡

但し、ドイツや東欧ではあまり流行せず

↓

人口減少 無人村、廃村の出現

封建制の解体